

山形県立新庄病院だより

回覧

令和6年
3月

わかば



- P2・3 新庄病院における耳科疾患に対する手術治療について
- P4・5 能登半島地震に対する新庄病院DMA Tの活動について
- P6 放射線部のCTが更新されました
- P7 リハビリテーション部に新たな診療機器を導入しました
- P8 新病院移行後にいただいた御意見について
- P8 地域救命救急センターからのお知らせ

山形県立新庄病院

安全、安心、信頼の医療を



YAMAGATA PREFECTURAL
SHINJO HOSPITAL

山形県立新庄病院

〒996-8585

山形県新庄市金沢720番地の1

0233(22)5525

<http://www.ysh.pref.yamagata.jp> (公式サイト)

<https://shinjo-resident.jp/> (リクルートサイト)

＼HPとSNSでも情報発信しています！



ホームページ



LINE



facebook



X

新庄病院における耳科疾患に対する手術治療について

山形県立新庄病院耳鼻咽喉科 古川孝俊

2020年4月に山形大学医学部附属病院から新庄病院へ異動となつてから、耳科疾患に対する手術治療を積極的に行ってまいりました。手術対象となる耳科疾患には多くの疾患があり、以下の疾患に対して新庄病院で手術を行っております。



滲出性中耳炎

外気との圧調整を行う耳管が上手く働かないと中耳に滲出液が溜まります。難聴を生じるだけでなく真珠腫性中耳炎に移行することもあります。

慢性穿孔性中耳炎・鼓室硬化症

鼓膜に穿孔が生じて続いている状態です。耳漏が出るなどの炎症を繰り返すため、中耳に炎症組織が蓄積します。

真珠腫性中耳炎

鼓膜の陥凹が起こり、中耳の骨破壊が生じる疾患です。めまい、不可逆性の難聴、顔面神経麻痺、髄膜炎、脳膿瘍を引き起こすことがあります。

中耳奇形・外傷性耳小骨離断

耳に入った音の振動を伝える耳小骨が欠損すると、音の振動が内耳に伝わらなくなるため難聴が生じます。

外リンパ瘻

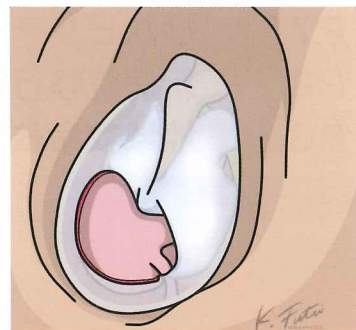
内耳を満たしているリンパ液が中耳腔に漏れてしまう病気で、めまいや不可逆性の難聴が生じるため、瘻孔を閉鎖する必要があります。

外耳道腫瘍・中耳腫瘍

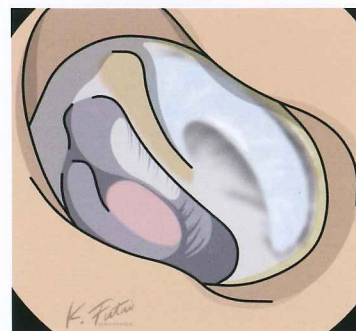
外耳道や中耳にも腫瘍が生じます。良性腫瘍のことが多いですが、診断と治療を兼ねて手術を行います。

急性乳突洞炎・乳様突起炎

急性中耳炎が悪化すると、鼓膜の裏の鼓室のみならず、乳突洞や乳突蜂巣といった耳後部組織まで炎症が進んでしまうことがあります。髄膜炎や脳膿瘍を生じるリスクが高いため、早期の手術が必要になります。



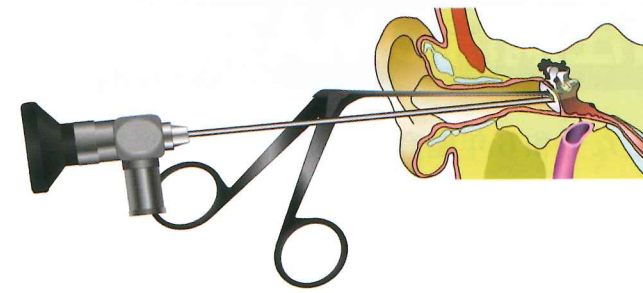
慢性穿孔性中耳炎



真珠腫性中耳炎

新庄病院耳鼻咽喉科では、特に頻度の多い慢性穿孔性中耳炎と真珠腫性中耳炎に対する手術を多く行っております。

山形大学では欠畑名誉教授と伊藤教授の指導の下、全国に先駆けて内視鏡下耳科手術に積極的に取り組んでおります。山形大学では10年以上にわたり内視鏡下耳科手術のセミナーを毎年、海外講師を招聘して開催しており、日本全国・東アジアの耳鼻咽喉科医師が研修に来県しております。



内視鏡下耳科手術



内視鏡下耳科手術セミナー

そして新庄病院でも内視鏡下耳科手術を多く行っております。大人から子供まで幅広い年代に手術を行っております。内視鏡下耳科手術は術後疼痛が少なく、回復が早いことが分かっております。手術を受けた患者さんの半分は術後に鎮痛薬を使わずに済み、術後早期から眼鏡を装着できる利点もあります。欧文誌 (O&N) に発表し、世界へも発信しております。

また、目が閉じられない、水を飲むと口からこぼれる、といった症状がある日突然出現する顔面神経麻痺という病気があります。顔面神経麻痺を引き起こす疾患として代表的な「ベル麻痺」「ハント症候群」の原因は、体内に潜在しているヘルペスウイルス (HSV・VZV) が耳の奥で再活性化して麻痺が起こります。ステロイド治療を行っても重症に進行してしまった場合には顔面神経管開放術という保険収載されている手術が行われる場合があり、新庄病院でも積極的に施行して患者さんの回復に努めております。顔面神経麻痺診療には特に力を入れており、新聞・テレビの特集などを通して山形県内の皆様に顔面神経麻痺診療のことを知ってもらえる様に活動しています。



世界耳鼻咽喉科学会、国際顔面神経シンポジウムでも発表を行い、質の高い医療を提供できる様に努めております。

なお、新庄病院は近隣耳鼻咽喉科医院と病診連携を密に行っており、手術が必要な症例を的確に紹介頂いております。耳のことで困ったことがありましたら、気兼ねなく近隣耳鼻咽喉科医院を受診ください。

新庄病院に紹介となった際には全力で診察させていただきます。



世界耳鼻咽喉科学会の感謝状

令和6年能登半島地震 新庄病院DMAT活動報告

令和6年1月1日(月)16時10分に発生しました令和6年能登半島地震に当院災害派遣医療チーム(DMAT)が、2回派遣されました。その際の活動内容をご報告いたします。

●DMATの紹介

はじめにDMATの紹介をします。

DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の頭文字をとって略して「DMAT(ディーマツト)」と呼ばれています。医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。「一人でも多くの命を助けよう」と厚生労働省により、災害派遣医療チームの日本DMATが平成17年4月に発足しました。今年で19年目を迎えます(厚生労働省DMAT事務局ホームページから抜粋)。

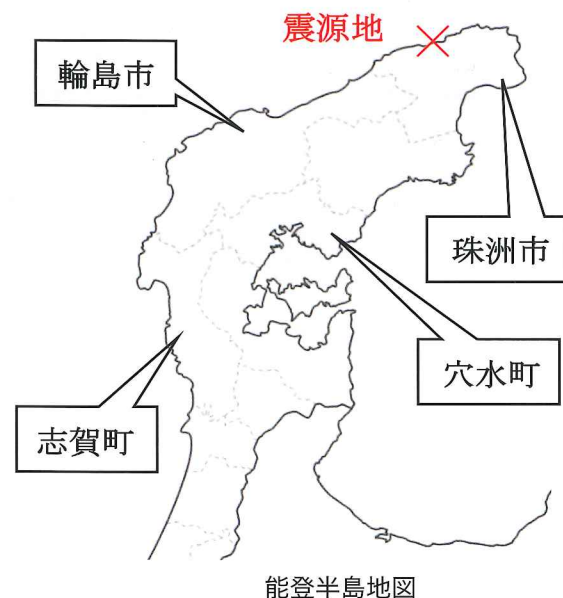
当院DMATは23名の登録があり、定期的な訓練および研修を受けて迅速に被災地に派遣し活動できるように取り組んでいます。今回の派遣は、令和元年10月の台風19号による洪水被害の対応で角田市への2回の派遣以来、約5年ぶりとなりました。



DMAT ロゴマーク

●「令和6年能登半島地震」の概要

発生日時：令和6年1月1日(月)16時10分
震源地：石川県能登地方(北緯37.5度、東経137.3度)
震源の深さ16km(暫定値)
マグニチュード：7.6(暫定値)
おもな震度：震度7 志賀町、輪島市
震度6強 珠洲市、穴水町など
震度3 新庄市
被害状況：死者238名、重症319人、軽傷969人
全壊2306棟、半壊3269棟
(令和6年1月31日現在 内閣府ホームページから抜粋)



●地震発生後の準備

1月1日(月)16時10分の地震は、DMAT自動待機基準の震度6弱以上となったため、持ち出し資機材の確認、準備を行い派遣に備えました。しかし、翌0時50分に中部地方のDMAT以外は、待機解除となりました。

●1回目の活動【活動期間(移動含む)：令和6年1月6日(土)～1月9日(火)】

新庄病院からの派遣DMAT隊員

- ・医師 長瀬 輝頭(チームリーダー)、高橋 一則
- ・看護師 井上 さとみ、難波 陽子
- ・業務調整員 伊藤 治 計5名

1月5日(水)18時14分に山形県医療政策課よりDMAT派遣要請(第3次隊)がありました。翌日の早朝の出発となりました。

活動内容として、穴水町の穴水総合病院救急外来での診療活動を行いました。固定電話が不通となっていたため救急車が、連絡なく到着するという非常事態となりましたが、医師、看護師が連携して円滑な診療を行いました。

移動距離が片道約80kmの金沢医科大学病院までの患者様の搬送業務は2回対応しました。悪天候で強風の中でしたが細心の注意を払いながら、安全運転を心がけて搬送を行いました。



出発式：八戸院長より激励を受ける



穴水総合病院救急外来での診療活動

●2回目の活動【活動期間(移動含む)：令和6年1月28日(日)～2月2日(金)】

新庄病院からの派遣DMAT隊員

- ・医師 仁木 敬夫(チームリーダー)、永井 美紗子
- ・看護師 上野 智可、福田 拓也
- ・業務調整員 伊藤 治 計5名

1月13日(木)20時31分に山形県医療政策課よりDMAT派遣要請(第6次隊)がありました。準備を進めて1月28日(日)の午後、能登半島に出発しました。

活動内容として、珠洲市市民ふれあいの里 健康増進センターを本部として保健師さんと合同で、珠洲市内の割り当てられた地区の全戸調査を行いました。在宅または不在の確認、家屋の倒壊状況を確認しました。道路状況が悪く自動車での移動は困難で徒歩での活動となりましたが、安全を確認しながら実施しました。



能登半島に向けて出発



珠洲市での全戸調査活動

●DMAT活動を振り返って

能登半島まで往復約1200kmで長距離の移動、亀裂の入った道路や倒壊した家屋が数多くある中での活動であったため十分に安全を確保して実施しました。多くの関係者と連携を取り円滑に活動ができました。今後、振り返りを行って、課題等を確認して今後の活動に反映していきたいと考えています。

また、この度の派遣活動におきまして、最上広域市町村圏事務組合から譲渡いただいた救急車と最上地域保健医療対策協議会の支援で整備しました資機材バッグ、薬品搬送カート等を利用させていただきました。御礼申し上げます。

放射線部より

新病院から導入されたCT装置のご紹介

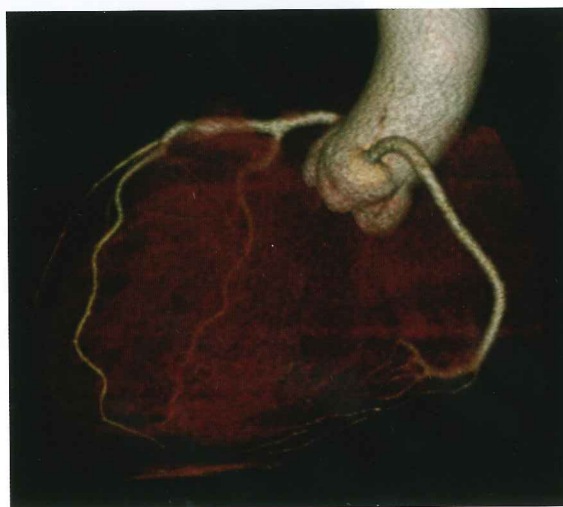
Deep Intelligence
Aquilion ONE
PRISM Edition



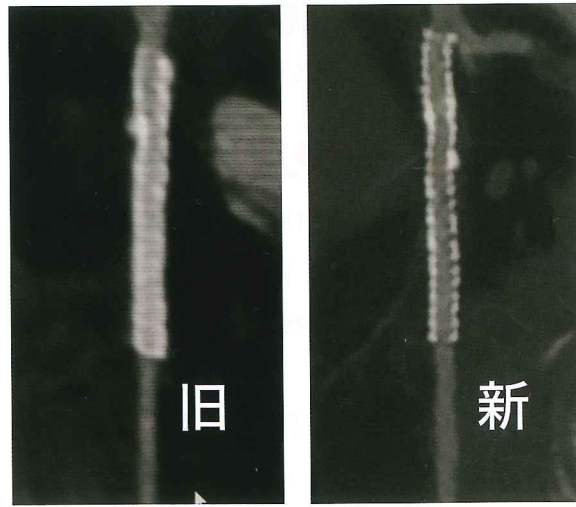
新病院移転に伴い、放射線部ではいくつかの新しい装置が更新されました。その中で、以前の病院で使用されていたCT装置の1つが更新され、今回はその新しいCT装置（Aquilion One Prism Edition）をご紹介します。

この新しいCT装置は、キヤノンメディカルの最新のCTスキャナで、画像再構成技術に「Advanced intelligent Clear-IQ Engine (AiCE)」を採用しています。AiCEは深層学習を駆使した技術で、低被曝でありながら高画質な画像を生成することができます。また、Dual Energy技術も搭載されており、スペクトル画像を取得することで臨床での様々な情報提供が可能です。これにより、より正確で効果的な診断が期待できます。

さらに、320列検出器を備えているため、心臓の撮影データにはPIQE (Precise IQ Engine) 技術が使用され、高画質とノイズ低減が得られます。これにより、ステント内腔や石灰化プラークなどの視認性が向上し、診断の信頼性が向上します。



冠動脈3D画像



新旧CT装置の冠動脈ステント画像比較

リハビリテーション部より

新病院から導入された医療機器のご紹介

新病院へと移転してから早4か月が経ちました。リハビリテーション室も多くの皆様にご利用していただき運動や訓練に励んでもらっています。

今回は移転に伴い導入された医療機器の一部をご紹介します。リハビリテーションは運動のみではなく物理療法など様々な機器も組み合わせて介入することもあります。しかし一見すると何に使うのか、どのような効果が期待できるのかわかりにくいものもあるかと思えます。そのため、この場では下記2つをご紹介します！

トレッドミル



運動療法で使用しています。いわゆるランニングマシンですが、患者様の状態や目的に応じて細かな設定やモード選択ができるため、身体に過度な負荷がかからないようにしつつ歩行～走行の運動が可能です。運動量に応じた走行距離や消費カロリーなどの表示されるため、モチベーションアップも期待できます！
この度、新しく導入されました。

高周波(マイクロ波)治療器 ～マイクロタイザー～



物理療法の中で温熱を用いた治療に使われます。発生させたマイクロ波を電磁波に変換し、患部に照射・浸透することで組織の加熱を行い、疼痛緩和や柔軟性向上を図ります。
ホットパックなど他の温熱療法よりも深部の温熱が期待できます。
移転に伴い、最新型にリニューアルされました！

症状や条件によってはすべての場合で使用できるわけではありませんが、皆様の状態を考慮し安全かつ効果的に利用できるよう努めています。

I 患者の声（新病院移行後、特に多かったご意見）

新病院に移行してから、多くの患者さん等から貴重なご意見をいただいております。特に件数の多かったご意見について紹介します。（病院内の掲示板でも回答しています）

ご意見①

新病院に銀行現金自動預け払い機（ATM）を設置してほしい

ご意見ありがとうございます。

院内に現金自動預け払い機（ATM）がなく、ご不便をおかけしております。

金融機関に対しましては、病院移転後も継続してATMの設置を要望して交渉しましたが、条件面で折り合いがつかず、当院として最終的に設置を断念いたしました。

ご理解くださいますようお願い申し上げます。

ご意見②

土曜日、日曜日の面会についても平日と同じようにしてほしい 土日でないとな面に来られない人もいる

ご意見ありがとうございます。

県立病院における入院患者さんへの面会につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点等から、平日14時から17時までとする取扱いとしており、土日については、同じ時間帯で荷物のお届けのみ受付けております。

病院には病気により感染症への抵抗力が弱くなっている方も大勢入院しておりますのでご理解下さいますようお願いいたします。

なお、お仕事の都合もあり、土日でないとな面会できないとご意見を頂いておりますので、今後新型コロナウイルス感染症以外の感染症の動向も踏まえ、より面会の条件を緩和できないかについては、引き続き検討してまいります。

II 地域救命救急センターの受診について（お願い）

新病院移転に伴い、新庄市の夜間休日診療所の機能を当院の地域救命救急センターに機能移転し、新庄市・最上地域医師会の先生方と当院医師が連携して救急医療に取り組んでいます。

体調不良等で当センターの受診についての電話相談を多数いただいています。

もし、当センター受診するかどうかわからない場合は、山形県救急電話相談をご利用してみてもいいですか。電話は、小児用と大人用に分かれています。

相談時間を拡大しました

山形県 救急電話相談

● 相談日：毎日
● 相談時間：18時～翌朝8時

下記の番号におかけ下さい

小児救急電話相談

● 県内のフッシュ回線・携帯電話からは
#8000 **15歳未満対象**

● ダイヤル回線・IP電話からは
023-633-0299

● 子どもの発熱についての相談
● 子どもの嘔吐や下痢等についての相談
● その他子どもの急な病気についての相談

大人の救急電話相談

● 県内のフッシュ回線・携帯電話からは
#8500 **15歳以上対象**

● ダイヤル回線・IP電話からは
023-633-0799

● 発熱、頭痛、腹痛、めまい、吐き気など急な病気の相談

